



発行所
 一般財団法人滋賀県遺族会
 滋賀県大津市京町4丁目3-28
 (滋賀県厚生会館1階)
 電話 (077)522-7227
 FAX (077)522-7233
 発行責任者
 滋賀県遺族会会長
 松浦 友一

謹賀新年

節目の年を迎えて

滋賀県遺族会会長
 松浦 友一



新年明けましておめでとうございませう。会員の皆様にはすこやかな新春をお迎えのこととお喜びもうしあげます。

さて、本年は先の大戦の終戦から80年、また、昭和元年から数えて100年となる「節目」の年を迎えました。我々遺族会の会員の平均年齢も84歳となり、心身ともに高齢化の波を感じる今日この頃です。

昨年度から滋賀県遺族会会長をお引き受けし、その任務を遂行する

ため、会員の皆様と共に「英霊顕彰」「恒久平和の実現」に向けて引き続き事業の推進を行っていき所存でありますので、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

戦後80年を迎え、国民の9割が戦後生まれとなり、先の大戦が過去のものとなる今、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始してから未だ終わりが見えない状況が続いており、また、それに加えてパレスチナ・イスラエル間の争いも依然として続いており、ますます長期化の様相を呈しております。

この状況を見る時、改めて戦争の悲惨さを感じられます。私たちは一日も早い終戦を願うばかりです。戦争を知らない世代が次期の戦争を知らない世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継がなければならぬ時代がすぐそこまで来ています。

私たち最愛の肉親を失った遺族にとつて、それはそれは筆舌に尽くし難い苦難の道筋をそれぞれ歩まれてこられたのではなかったのではと推測しております。皆様は、一家の大黒柱を失った戦没者遺族という身の上を意識せざるを得ない人生を歩んでこられました。

「平和の語り部」を通じた社会貢献を
 日本遺族会会長
 水落 敏栄

「遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。年頭にあたり、日本遺族会会長として、「平和の語り部」を通して社会に奉仕する決意を表明いたします。

本会は、「二度と戦没者遺族を出さない」という固い決意のもと、77年の長きに亘り活動を続けてまいりました。組織の構成は、戦没者の父母、兄弟、姉妹から妻へ、そして遺児から戦後生まれの青年部へと多くの方々のご尽力により繋がれてまいりました。その間一貫して活動の根幹は「英霊の顕彰」「戦争の犠牲を忘れさせないこと」でありました。

時代は激動の昭和から平成へ、戦後生まれが、社会の半数を占めはじめ、先の大戦の記憶を後世に語り継ぐ機運が生まれ、各方面で語り部や体験集発刊等がさかんに行われました。しかし、いっしょに人々の興味は薄れ、戦争の記憶は今消えようとしています。本会はこうした状況に大いなる危機感をもち、それまで草の根的に広がった語り部を確実に次世代へ継承するため全国的な組織化を令和5年度から3カ年計画で始めました。

他方、国も戦争の記憶を風化させないよう令和6年度より「平和の語り部事業」を新設し、本会が応募し、採択されました。

今回、来年度予算要望の最重要項目、「国は戦没者を忘れない」とする



12月1日、「令和6年度平和祈念滋賀県戦没者追悼式」が、甲賀市あいこうか市民ホールにおいて開催されました。また、その後、戦争遺留品の返還式が執り行われました。

戦後79年が過ぎ、戦争を知る人が減少している今だからこそ、この追悼式が存在は大切に守り伝えていかなくてはならない事だと思えます。

今の私たちが安心して暮らせる世の中になったのは、先の大戦で日本国の礎となり、命を犠牲にされた英霊の皆様のおかげだということを忘れてはいけません。

また、戦禍の中、家族を守り生き抜いてこられた私たちの先輩方のご苦労や努力を忘れてはいけません。

戦争遺留品として日章旗がご家族の元に還ってきた

「平和祈念滋賀県戦没者追悼式」に参加して

青年委員会 甲斐 聡美

この上は、社会のニーズに応えるため、多くの語り部活動者の育成が急務です。地域において個人で活動する語り部を掘り起こすと共に、体験者である遺族と次世代青年部が共に記憶の伝承に取り組んでまいりましょう。

そして、最終年となる遺児の慰霊友好親善事業(洋上慰霊)や遺骨収集、遺留品返還、慰霊碑の維持管理、あらゆる活動を通して、平和を語り継ぎ、意識を醸成し、より多くの語り部活動者を育成しましょう。

終戦80年、遺族に課せられた社会的責務「平和の語り部」を通して、社会に奉仕し、平和な社会の構築を担う団体として、戦後百年まで活動してまいりましょう。

ことで、持ち帰ったアメリカの方も日章旗の持ち主のご家族も心にどれだけの想いを持たれた事でしょう。79年の時を経て、戦争は終わってはいないのだと改めて思いました。追悼式は英霊の皆様を偲ぶだけではなく、このような思いや出来事を次世代へつなぐ大切な式でなければいけないと思えます。

今回も次世代戦跡訪問をされた子供たちが思いを語ってくれていました。学んだことのストリートな気持ちや込められた感想でした。これが「つなぐ」という事なのだと思います。

AI化が進み、核の技術も進化してデジタル化された今だからこそ、戦争の愚かさ、恐ろしさ、醜さを伝えていかなくてはなりません。人が人として安心、安全に生きるために、啓発や学ぶ機会を考えていかなくてはならないと思えます。未来を支えていきましょう。

平和祈念滋賀県戦没者追悼式

平和メッセージ

戦争を起こさせないために

大津市立打出中学校 川部夏星



戦争は、無くすべきもの。それは言うまでもない事実です。ですが、現在もいまだに戦争が続いています。

何故戦争はなくならないのでしょうか。たとえば、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスやヒズボラなどの現在も続いている戦争は、国連や様々な国が抑えようとしていますが、実際、その戦争を終わらせることができていません。

戦争が起きるのは、民族や宗教の問題、領土や資源、考え方の違いなど様々な原因があります。戦争が一度始まると、その原因は解決しにくくなります。そのため、最初から戦争を起こさせないようにすれば良いのではないかと、私は思いました。

そうするためには、戦争が起こりそうになっていく予兆を事前に察知し、諸外国が戦争を起こさせないように粘り強く努めていくべきだと思います。

しかし、現状、そこまですべて各国が戦争を無くそうとしているようには私には感じられません。

自国の利益優先で、他国の問題を関係がないと無関心でいたり、自国の利益が得られるからなどとの理由で、戦争を仕掛けた国を支援しようとしている国もあるからではないでしょうか。

現在、このままでは戦争を無くすことが出来ないように感じます。ですから、世界中の人々が今以上に戦争を無くすように取り組むべきなのです。

そのように取り組む中でも最も重要なことは、教育ではないかと思えます。何故なら、戦争を知らない世代や、戦争に関心な人たちが、戦争をしてはならないという意識を持つ必要があるからです。

ですが、現在の日本の学校教育では、戦争についての学習があまりにも少なすぎると思います。なので、学校で戦争について学ぶ時間をもっと多

平和祈念滋賀県戦没者追悼式

戦争遺留品返還式

魂が帰ってきたやっとな戦争が終わった

日本遺族会では、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査事業を厚生労働省から委託を受け、アメリカのNPO法人OBONソサエティと業務提携して、寄せ書き日の丸等の遺品がご遺族へ返還されるよう事業を推進して

いますが、このたび本県高島市の遺族会員のもとへ寄せ書き日の丸が返還されました。

日本遺族会では、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査事業を厚生労働省から委託を受け、アメリカのNPO法人OBONソサエティと業務提携して、寄せ書き日の丸等の遺品がご遺族へ返還されるよう事業を推進して

いますが、このたび本県高島市の遺族会員のもとへ寄せ書き日の丸が返還されました。

会事務局から、戦没者である前川雪夫さんの日の丸寄せ書きが届いているので、遺族の所在などを調査してほしいとの依頼がありました。住所は番地まではつきりと記載がありましたが、早速住所を調査したところ、本人の孫の方と面会でき、寄せ書きには約80年の経年劣化などで読みにくいお名前もありました。幾人かは確認でき、

ご遺族へ返還されることになりました。前川雪夫さんは昭和19年11月にフィリピンレイテ島で戦死されました。出征時には家族、親戚、近隣の親しい人々など、多くの方が武運長久を願って日章旗に寄せ書きされたのですが、米国人はこの寄せ書き日の丸が戦利品でなく、日本人の心と気づき、受け取ったご遺族は「魂が帰ってきた。これでやっとな戦争が終わった」と感じておられたに違いありません。

高島市の行政関係者も出席いただき、厳粛に返還式が行われたことをご遺族にお伝えしたところ、故人の肉親とふるさとを思う強い心が通じたのではないかと感謝の言葉を述べておられました。(高島市遺族会)



「みたままつり」厳かにそして盛大に...

祭祀(みたま)委員会 持田長三郎

今年も「みたままつり」が2195灯を超え

る献灯をいただき、厳かなうちにも盛大に開催す

ることが出来ました。献灯いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



48回という歴史ある「みたままつり」は、市町遺族会の献灯の取りまとめをはじめ、短冊吊り、撤収作業などに多くの人の協力を得て開催しております。

準備は5月から開始し、献灯総数の決定、短冊、タオルの発注、実施要領策定、6月からは護国神社境内清掃、短冊、タオルの発送、市町毎の提灯吊り場所の決定等々のべ8日間行いました。

熱中症警戒アラートが発表されている酷暑の中、委員の皆さんには大変ご苦勞をおかけしました。

8月13日夕刻は「みたままつり奉告祭」一点灯式が斎行され、3日間の「みたままつり」が始まりました。

14日、15日は「終戦記念式典」「県下戦没者慰霊祭」等の式典が護国神社宮司様により執り行われ、午後9時の消灯で祭事が終了しました。そして、期間中に行った「金魚すくい」では、参拝に

来られた子供さんたちに大変喜んでいただきました。

16日の提灯の撤収では市町遺族会の応援のもと、前夜の雨で濡れている提灯を拭くなど大変な作業を手際よく進め、午前中に終了することが出来ました。

猛暑の中の「みたままつり」は、熱中症対策に万全を期すことが求められ、日中の作業の制限や式典参列にクールビズを取り入れることなどを考えております。

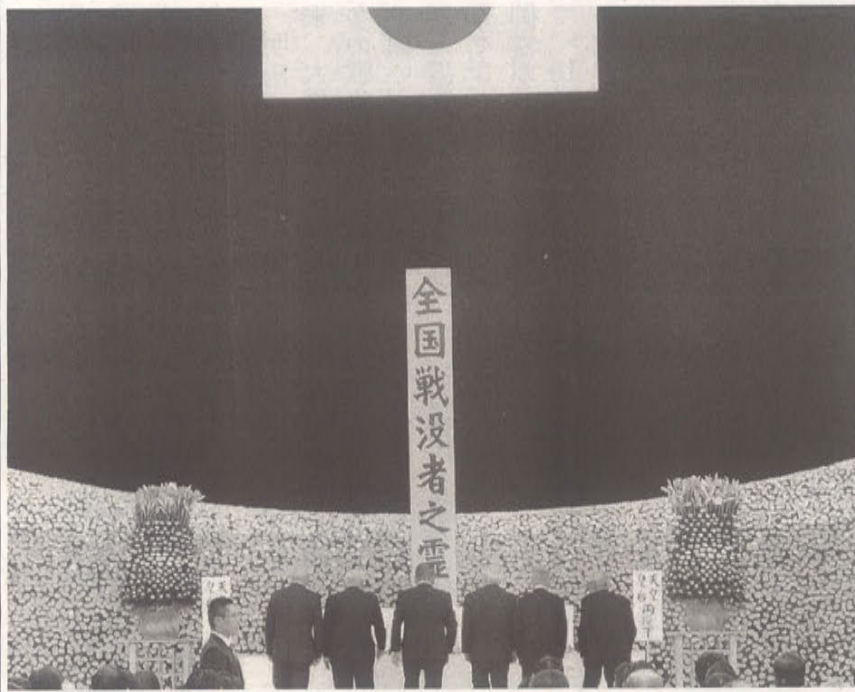
また、金魚すくいについてはこうしたまつりに適しているのかとか、子供の数が減少していることから止めてはとの意見

などあります。今年、遺族会員数が減少し提灯の献灯数も減り、加えて会員の高齢化による作業中の危険度が増すなど、みたままつりの継続が危惧されております。

今後のあり方について、例えば、遺族会青年部が中心で実施するか、他の団体に開催をお願いするなど検討すべき時期がきているのではないかと思います。

こうしたことを考慮しながら、来年も今年同様開催できることを念じております。

引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。



終戦から79年を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館（東京）で開かれました。遺族、天皇・皇后両陛下、岸田文雄首相ら約4000人が参列。亡くなった約310万人を思い、平和と不戦を誓う式典が執り行われました。

私も滋賀県内より参列された方々の一員として式に参列させて頂きました。昨年参列させて頂く

「全国戦没者追悼式」に参列して

甲賀市遺族会 大治 正雄

予定でしたが、台風が近畿地方を直撃する予報があり、急遽滋賀県団は欠席となり、本年初めての参列となったのです。

式では参列者全員で1分間の黙とうを捧げました。その後、天皇陛下が「おことば」で「深い反省」にふれられ、「将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。再び戦争の惨禍が繰り返されぬ事を切に願う」と

の言葉がありました。岸田首相は、「先の大戦で犠牲となられた御霊の御前に御霊安かれ」との式辞を述べられました。

その後、代表献花があり、滋賀県を代表して標柱の前で献花をさせていただきました。胸の内ポケットに持参した父の遺影と広島県呉の海軍工廠から母に宛てた軍事郵便と共に、標柱の前であらためて戦没者の御霊への哀悼



「全国戦没者遺族大会」開催

事務局長 森野 愛子

12月10日、日本遺族会主催の「第79回全国戦没者遺族大会」が開催されました。

東京・千代田区の自由民主会館において、令和7年度政府予算に対する日本遺族会の要望事項の完全実現に向けて行われ、大会宣言、決議案が朗読され、満場一致で拍手をもって採択されました。

大会終了後には、全国から集まった遺族代表が、「平和の語り部」事業等の要望事項が政府予算に盛り込まれるよう、地元選出自民党所属国会議員に対して、理解と協力を求め陳情しました。

「滋賀県戦没者遺族大会」開催

総務企画委員会 谷川 利治



10月12日、令和6年度滋賀県戦没者遺族大会が、近江八幡市文化会館にて開催されました。

来賓として県知事代理を始め、日本遺族会会長水落敏栄氏、県選出の国会議員、県議会議員、地元市長他、多数の来賓の

ご臨席を頂くと共に、県下各地より500名の会員の参加を得て、盛大に開催出来ました。

開催の言葉、国歌斉唱、戦没者に対するの黙祷に続いて、松浦友一会長の挨拶。続いて、遺族会活動に長年尽力された

方々に、知事表彰4名、会長表彰17名に各々表彰状が授与されました。続いて、県知事代理を始めとして来賓の祝辞を頂きました。

今回は衆議院選挙中であり、立候補者全員の祝辞を頂戴しました。

次世代体験発表では、武佐小学校の揚田琉生さん、藤本彩愛さん、門謙佑さんが、3月の鹿児島知覧での体験を発表されました。大会宣言、決議が読み上げられ、全員の拍手で採択されました。

アトラクションでは、八幡中学校生徒8名による太鼓の演奏があり、中学生とは思えない一指乱れない素晴らしい演奏に、皆感動を覚えました。

本年度から午後からの開催となりましたが、無事成功裏に終わることができ、関係の皆様にご礼申し上げます。

と二度とあの痛ましい戦争が起きない事と併せて、世界中の平和が一刻も早く訪れることをお祈りいたしました。

式典終了後は、何か今まであった肩の荷が急に下りたような気持ちになり、帰路につき、お仏壇に式典の一部始終を報告

いたしました。

滋賀県知事様、県議会議長様、県の職員様、有難うございました。



県護國神社秋季例大祭に想う

彦根市遺族会 林恵美子

明治戊辰東征の役以来、大東亜戦争に至る幾多の戦争で、国家の安泰を願ひ、尊い命を捧げられた滋賀県下の戦没者の御霊をお祀りしたお社で、10月5日午前10時より秋季例大祭が厳かに斎行されました。

この例大祭には、彦根市遺族会員が雨の中、テントの設営、準備、後始末等、影の協力があつた。また、湯茶接待は県女性委員会の方、彦根女性部のバザーと、参拝者にホッと心の和む一時を過ごして頂ければと思つています。以前、婦人部のお母さんに「けがれなき白いエプロンで参拝者をお出迎えしてください」と言われ今日に至ります。



「浦安の舞」が終わる

高齡化が進み参拝者が減少する中、若い世代の方々の参拝を願うばかりです。

皇子山陸軍墓地・滋賀県戦没者英霊塔彼岸法要に参拝して

東近江市遺族会 辻和雅

戦後79年、暦の上では秋であります。異常に暑い中での参拝となった今年の彼岸法要。参拝者皆が涙汗ではありませんが、タオル片手にそれぞれ思いを胸に参拝されているのがとても印象に残っております。

これから先も決して途絶えてはならない事業の一つだと再認識した参拝でした。しかしながら、時の流れと共にあの時代、日本国での出来事が風化していく事実もあります。これからの時代を担う我々世代が、先輩方から教えていただいた事を我々より下の世代に引き継いでいく事が今を生きる我々の使命だとも感じる一日となりました。また、毎日のようにメディアでは他国の戦争の

青年部に所属して

長浜市遺族会 那須康一

今年度より長浜市青年部長を拝命いたしました。高月町的那須康一と申します。

祖母や父が生前、熱心に取り組ませて頂いた遺族会活動ではあります。が、私自身は慰霊祭や折

悲しみだけが残るだけなの。

戦争の起こらない未来は本当に訪れるのだろうか、本当の意味での世界平和はいつのことだろうか。と考えるだけでなく、何か行動を起こし、皆で力を合わせ訴え続けていく事が一番重要かつ大切な事だと思ひます。今回この法要に参加させて頂いたとき、感謝申し上げます。



三日月知事 膳所英霊塔清掃奉仕

英霊顕彰委員会 伴忠信

今年も滋賀県の三日月大造知事と県秘書課ならびに健康医療福祉部の皆様、終戦祈念月の8月19日に、大津市膳所公園の英霊塔の清掃にご奉仕頂きました。

年目となり、県庁の皆様のご参加が徐々に増してきたのは滋賀県遺族会として大変うれしいことです。



戦後79年、日本は復興目覚ましく、遺族・遺児でさえ体験してきた戦争の悲惨さを忘れかけているこの時期、慰霊の心を持った方々が大勢おられることに感謝申し上げます。先の大戦で滋賀県から出征され、戦没された方が約3万3000人お

いであります。戦後80年ということ、遺族会活動は事業継承等、各種問題も多々あるうかと思われまふ。大変微力ながら一会員、一市青年部長としてお役立ち出来るよう頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

られますが、膳所公園の英霊塔の堂宇には約2万人の位牌が周りの柵一面に祀られております。戒名・法名・俗名等表示は様々ですが、亡くなられた方々の位牌が約2万人も並び祀られている光景は大変恐ろしく見えます。大きな碑に沢山の名前(俗名)が刻まれた光景は沖繩県で見ることが出来ますが、位牌で見られるのは膳所公園の英霊塔だけです。

ファイリピン、ハワイ、ワシントンで米国の戦死者の白い墓標が整然と並び風景には及びませんが、ぜひご親族のお参りをお願いいたします。

なお、毎月15日(8月は除く)は、各市町が分担して英霊塔の掃除を実施しております。



北方領土視察団に参加して

青年委員会 北川健二

10月21日から24日まで、北方領土返還要求運動滋賀県民会議の視察団派遣に遺族会から3名が参加しました。

北方領土が第二次世界大戦終了直後、旧ソ連軍により不法に占拠されてからすでに79年が経ちましたが、いまだ解決には至っていません。加えてロシアによるウクライナ侵攻によって日ロ関係は更に厳しい状況にあります。そんな中、視察団として、北方領土

の姿をしつかりと目に焼きつけ、ご高齢になられた元島民の方々との交流を通して、その熱い思いを感じ、北方領土問題の一日でも早い解決に取り組むことは、恒久平和を願う遺族会の活動とも合致するところだと思えます。

視察訪問した根室市庁舎や納沙布岬からは、すぐ近くに対岸の歯舞群島や国後島を見ることができました。生まれ育った故郷に帰れない元島民



の気持ちを思い、北方領土問題の解決に向け、遺族会としても協力していきましょう。

第3ブロック女性部・青年部 合同研修会を受けて

副会長 辻正人

10月26・27日に「令和6年度日本遺族会第3ブロック女性部・青年部合同研修会」が和歌山県護国神社（和歌山市）で開催され、本県青年部代表として、青年委員会委員長の村島茂男氏と私が参加した。

青年部のブロック会議は昨年（令和5年度）に続き2回目、従来実施していた日本遺族会青年部研修を近隣の各府県での開催とするこ

とで、参加率を上げ情報共有を図るといった趣旨から、ブロック開催となったものである。

核となる部分は、終戦80周年に向けた平和の語り部事業の展開についてである。本部からの説明の後、共に第3ブロックのアドバイザーである滋賀県遺族会前会長の今堀治夫氏の遺児講演、兵庫県青年副部長の大東潤氏の兵庫県独自のメディア

や映像を活用した取り組みについての講話を受けた。その後、参加各府県からの情報交換等が行われ、今後の展開を検討する題材の共有ができた。

今回の研修を通して、滋賀県としては、次世代戦跡訪問事業が語り部事業につながるため、継続とさらなる展開を検討することが重要であると再認識した。



「自由民主党滋賀県国會議員・県議会議員とのつどい」開催

総務企画委員会 谷川利治

令和7年度当会の行政に対する要望事項に関する「自由民主党滋賀県国會議員・県議会議員とのつどい」が、自民党国會議員6名（内2名代理）、県議会議員10名の参加を得て、12月7日、アヤハレックサイドホテルで開催されました。

会長挨拶の後、要望事項として、国會議員には「特別弔慰金の支給範囲の拡大」「未帰還遺骨及び遺品の早期返還」「慰

霊碑等にかかる支援について」、県議会議員には「遺族会館解体費用の支援」「県厚生会館借用について」。他に、青年部育成について、語り部事業について。

以上の要望事項の支援について、辻正人副会長が項目毎に読み上げた後、国會議員代表として小鍵隆史議員、県議會議員代表として奥村芳正議員に要望書が手渡されました。

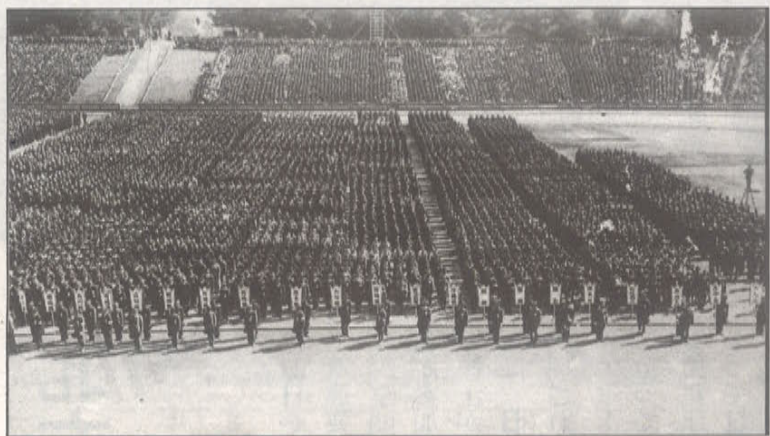
その後、各議員より自己紹介を兼ねて要望に対しての力強い表明がありました。

続いて、参加会員48名のそれぞれのテーブルに各議員を交えての懇親会に入り、身近に各議員と意見交換をすることができ、今後活かすことができました。



滋賀県平和祈念館だより

第36回企画展示
戦時下の滋賀県民とスポーツ
6月22日(日)まで



滋賀県平和祈念館では、第36回企画展示「戦時下の滋賀県民とスポーツ」が、6月22日(日)まで開催されています。太平洋戦争が始まると、日本伝統の武道が奨励される一方で、スポーツの全国大会などには規制が強まり、さらには食糧増産のために運動場が畑に代わっていききました。

「国民スポーツ大会」「全国障害者スポーツ大会」の本県開催に合わせ、今回の展示では、滋賀県民とスポーツの関わりについて、昭和初期から終戦までの15年間を中心に、当館が収集してきた関係者の体験談や関連資料などを紹介します。この展示を通じて、私たちがスポーツを楽しむことができる平和の大切さについて考えます。

場所 滋賀県平和祈念館(東近江市下中野町431)

☎0749-46-0300

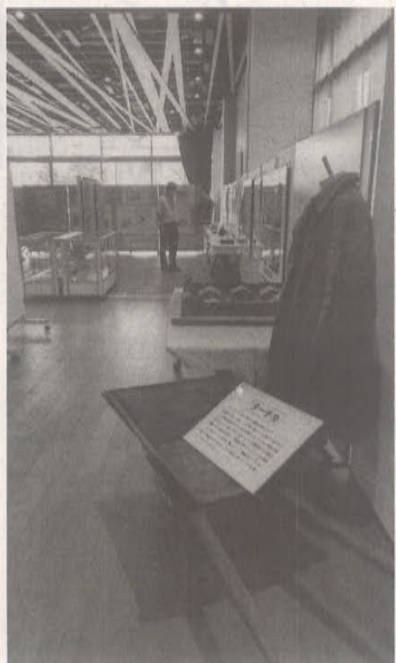
開館時間 午前9時30分～午後5時(最終入館午後4時30分)

休館日 月・火曜日(祝日の場合は開館)

入館料 無料 ※駐車場 約50台(無料)



8月6日、守山市民運動公園「平和の広



場」で、来賓の議会議員(県・市)、遺族会、自治会長、各種団体長、学校教職員、市内小中高生代表者、合わせて総勢200余名の参加のもと、守山市主催「平和を誓うつどい」が開催されました。

まず、最初に守山市遺族会速野学区で採火された種火から、石田自治連合会会長の「かがり火台」への献火が始まり、森中高史市長の挨拶に続き、守山北中学校3年片岡日葵さんによる「平和の誓い」があり、その

「平和を誓うつどい」開催

守山市遺族会 岡本勝一

後、各代表による献鶴がありました。今年、「平和の祈り像」前に、守山市遺族会より竹灯籠による平和への「メッセージ文」として「世界に平和を！核兵器のない世界の実現は人類共通の願い。語り受け継ごう平和のバトン」を披露しました。その前で、西村弘樹市議会議長および私の挨拶があり、「核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて共に努力すること」を誓い、閉会しました。

参列予定都市

- 4月 甲賀市
5月 近江八幡市
6月 東近江市
7月 蒲生郡
8月 愛知郡
9月 愛知郡
10月 彦根市
11月 長浜市
12月 米原市
1月 犬上郡
2月 大津市(堅田)
3月 高島市

※堂内は約30人着席可能です。
※駐車スペースが狭いため、お車はなるべく乗り合わせてお願いします。
※参拝者の遅延に関わらず、10時30分より法要を開始します。交通事情で到着が遅れる等の場合は、遺族会事務局(077-522-7227)までご連絡ください。

令和7年度

滋賀県戦没者英霊塔(膳所公園)

「月並法要」各都市参列計画

毎月15日午前10時30分から11時頃まで、滋賀県戦没者英霊塔(膳所公園)において月並法要を行います。9時30分に集合いただき、周辺清掃のご協力をお願いします。その際、草刈りのできる道具、手袋等をご持参いただけますと助かります。
なお、8月は諸行事と重なるため実施しません。

援護事業功労者表彰

令和6年度滋賀県戦没者遺族大会において、戦没者遺族に対する援護事業に貢献された方々が、知事表彰(4人)、滋賀県遺族会会長表彰(17人)を受賞されました。

令和6年度援護事業功労者

滋賀県知事表彰

- 夏川嘉一郎 (86歳) 彦根市
西堀駒次 (85歳) 近江八幡市
平井康博 (82歳) 東近江市
幸池美保子 (79歳) 近江八幡市

令和6年度援護事業功労者

滋賀県遺族会会長表彰

- 小谷愛子 (80歳) 大津市
澤本長俊 (55歳) 高島市
三田村君枝 (80歳) 高島市
本村均 (73歳) 草津市
藤井重機 (80歳) 守山市
山下光男 (80歳) 甲賀市
村田綾子 (81歳) 甲賀市
西村八重子 (78歳) 近江八幡市
中西嘉幸 (78歳) 近江八幡市
浅井喜美子 (80歳) 東近江市
八田耕造 (81歳) 東近江市
森下寛一 (73歳) 東近江市
三上清一 (80歳) 東近江市
曾羽八重子 (81歳) 蒲生郡
徳田繁子 (80歳) 愛知郡
北村三昭 (83歳) 彦根市
北村久夫 (69歳) 彦根市

厚生労働大臣表彰に2氏

多年にわたり援護事業に携わった功績をたたえる「令和6年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰」に、次の滋賀県遺族会会員が受賞されました。

- 田中正彦 (83歳) 大津市
井上亮一 (82歳) 近江八幡市

◆滋賀県護國神社 英霊顕彰館だより

【入館者ノート】

※原文のまま

☆4月14日
今ある平和は英霊の皆様のお陰です。感謝の気持ちをお返しにこの平和な世の中を次の世代に継いでいかなければいけないと強く思いました。(匿名女性)

☆8月10日
何回よせてもらっても若くして戦死した方々に敬意を覚えますと共に生きていてもらいたかったと胸に詰まるものがあります。(高島市男性)

☆8月13日
会社を退職してミヤンマーへ6回父に会うことができ、母が元気な時は一回、母が亡くなったからはお父さんの亡くなったサイガン(ナンシヤン)の地に3回、もう年なので会いに行けません。ここ護國神社で会いましょう。(米原市男性)

☆9月7日
自分と同じ年代の方々が戦争で命を落としていた事

に心が痛いです。(和歌山県男性)

☆12月17日
今年、1カ月に1回訪問させていただきました。無事に1年間過ごすごうが来ました。ありがとうございます。ですが良いお年を...

【来館者数】

※ノート記載者のみ

- 1月 29人
- 2月 13人
- 3月 17人
- 4月 19人
- 5月 20人
- 6月 7人
- 7月 14人
- 8月 55人
- 9月 14人
- 10月 11人
- 11月 12人
- 12月 10人

令和6年は元旦早々、能登半島で大きな地震が起こり、甚大な被害を受け、日本中が震撼いたしました。また、同じ能登半島を今度は記録的な大雨が襲い、復興の遅れが指摘されていた地域での被害が拡大し、命と暮らしが再び脅かされる事態になりました。季節では春から夏にかけて年々猛

暑日が続く、やっとな秋を迎えたと思いきや、もう冬支度と自然の恐ろしさを目の当たりにした1年だったように思います。

戦後80年の年を迎え、ご遺族の高齢化により、御英霊のお写真を処分されるご家庭が増えてまいりました。

「滋賀県英霊顕彰館」には、御祭神を目に見える形で多くの方々に知っていただくべく、県内各遺族の方々から英霊のお写真を借りし、半永久的に展示・掲揚できるようにアルミ板で写真を作成し、約7000枚のお写真の展示・掲揚が可能になっています。お写真の展示・掲揚するところにはまだスペースがございますので、処分されることなく戦死された御英霊のお写真が永遠に残るように展示・掲揚をお勧めいたします。神社社務所までお問い合わせください。(広報委員会)

滋賀県英霊顕彰館



戦後70年、滋賀県護國神社創立140周年を記念して、平成28年10月の秋季例大祭に合わせて境内に開設しました。

館内には、元滋賀県知事・國松善次氏奉納の「慰霊平和祈願御朱印屏風 全国護國神社自転車参拝録」が展示されています。

【開館時間】

午前9時～午後4時

【休館日】月曜日

☎0749-22-0822(滋賀県護國神社)

あじさいなみ

「平和のよろこび展」開催

岡本勝一

7月26日～31日の6日間、守山市と守山市遺族会共催のもと、守山市役所新庁舎多目的ホールで「第32回平和のよろこび展」が開催されました。

本年は通常展示として遺族会による戦争遺品、県遺族会が主催している「海外戦跡慰霊巡拝」の写真パネルの展



のシベリア抑留コーナー」を設け、今までにない多彩な展示となりました。

前年度までは守山市民ホール展示室で開催していましたが、令和5年8月に新庁舎となった市役所内でぜひ開催したく希望したところ、今年

市民の方々に立ち寄って頂いたり、他市町からわざわざ来庁してくださった方々など、いろいろなお方をおられました。

中でも「シベリア抑留展」を見学された市民の方々は、

異口同音に「日々厳冬の中、過酷な労働で虐げられていたのに、お粗末な食事しか与えられていない状況に耐えておられた抑留者の事を考えると言葉が出ない」と話されていました。

また、「原爆の絵」については、「原爆の恐ろしさに改めて脅威を感じた」との感想が聞かれました。

開催中に、のべ400名近くの県民・市民・他府県民の入場者があり、例年より約100余名多くの方々に来て頂き、成功裡に終えることができました。ご来場頂きました皆様、本当にありがとうございました。

戦後79年 平和を次の代へ

水原一夫

今年も、8月15日が来ました。この日は、日本が無条件降伏した「敗戦の日」です。敗戦直前、広島と長崎に原爆が落とされ、広島では約14万人、長崎では7万4000人が命を失いました。幼い子どもやお年寄りといった非戦闘員が多く、「無差別爆撃」そのものでした。それから65年後、広島の平和記念式典に米駐日大使が初めて出席しましたが、原爆投下への謝罪はありませんでした。

私は戦争遺児として育ち、フィリピンなどでの遺骨収集活動や、地元の忠魂碑の清掃・管理に携わってきました。しかし、遺児たちも高齢になってきています。平和を次代につないでいくには、犠牲になった人々を敬うことが大切です。戦争の記憶を伝えつつ、追悼式や忠魂碑をどうするのかについても、国が方向性を示す必要が出てきているのではないのでしょうか。8月15日の意味を再確認し、平和の大切さを訴え続けることが、私たちの責任だと考えています。

友 族 の 遺

今もう一度、考えてみよう

東近江市遺族会

福島睦一

私は先輩が造り上げた父の像の除幕式に参加して以来、遅まきながら遺族会に入会させてもらいました。以来半世紀の間、ひたすら素晴らしい仲間と共に、遺族会の活動に参加してきました。

その中でも、これは許せん

と心に残るのが、初めてのマリアナ諸島の遺骨収集であります。国家がなすべき仕事である戦没者の遺骨収集を、遺児たちが行ったのです。私は、故人となられた山田利治さん、丸岡芳勝さんと参加して、その中には板垣正さん、増矢稔さんのような日本遺族会をリードする仲間も一緒に参加した。帰国後、県選出の山下元利議員の計らいで、総理官邸に当時の田中角栄総理に直

訴に行くことになりました。残念ながら田中総理には出会えませんでした。副官房長官と要職におられた山下先生のご尽力で、政府は昭和48年から海外の遺骨収集に予算を付けて、本格的に遺骨収集が行われたのです。

おかげで、私は昭和48年11月26日、父の戦没地にたどり着くことができました。幸いにも、父の戦友が熊本に帰還されておられ、最後の行動を綿密に記載した手紙が祖父のもとに届いていたのです。私はフライピンに出発に当たって、母からその手紙を預かって参加して、旧厚生省の係の人にその手紙を見せると、「こんな正確な地図があるのなら、明日は福島君のお父さ

んの戦没地、ボソボソ地区神力山を捜索しよう」となりました。隊員の協力を得て、ボソボソ川を腰まで水に浸りながらも、目的地の神力山に到達する事が出来ました。

私は、多くの仲間の中で、父の戦没地に到着できたことは奇跡的な出来事だと幸せに思っています。今朝もテレビでペリユリウ島の遺骨収集で戦没者の孫にあたる方が報道されていました。50歳の女性でしたが、81歳の父に代わって毎年政府の事業に参加されていきました。あまりにも年月が経過して大変な作業であります。彼女がひたすら祖父の遺骨を探し求めていた

1 天皇の戦争終結に対する考えと戦争犯罪には該当はないか。
2 A級、B級戦犯を国民はどれだけ理解しているか。
3 終戦に持ち込む政府要人の責任は、敗戦が濃厚な状態はわかっていたらどうか。

無謀な作戦が続けられた。その要人たちの責任は曖昧だ。
4 政府、当に総理は英霊の命を尊く感じているのか。
5 遺骨収集はあまりにも時間が経過し、困難きわまる事業ではあるが、国はその責任を忘れずに。私の体験から、南方の浅瀬に沈んでいる軍艦の調査を急いでほしい。

6 遺族の一人として、以前にA級戦犯が靖國神社に合祀された事は腑に落ちないところがあつた。法律でA級、B級戦犯は解決済みと言う事だが、合祀を取り下げて隣国も納得できる友好関係に戻してほしい。
7 遺族会、英霊にこたえる会の会員の減少は止められない。その対策は。
8 南京大虐殺の真相は。私は以前中国の友好親善戦跡巡拝を4回経験している。南京大虐殺の大変な映像と30万人の死骸の様子を見学した人たちはどう見たのか。戦争には虐殺はつきものだが、何故30万人なのか。
9 アメリカが投下した原爆は国際法からしても当然違反と考える。アメリカは未だに投下の正当性を言う。戦争はやはり戦勝国のものか。
10 最後に。父は、両親、最愛の妻、そして3人の子供を残して昭和20年5月4日の夜、敵前に斬り込み作戦をたて、最後の戦いに挑んだ。「戦争は殺し合いや、負けたら絶対に帰ってはこない」との父の固い意志が突撃になったのか。悔しい。

忠魂碑建立105年目に思う

近江八幡市遺族会

水原一夫

近江八幡安土支部では、今年も青年部の副会長西津さんが、忠魂碑に向かって388柱に対して、次のような奏上をのべられました。

「戦後79年を迎えるにあたって、今日平和な生活を維持で

きるの、あなた方の犠牲のお陰です。しかしながら、近年会員の高齢化が進み、退会者が増えつつあります。けれども、残された私たちは英霊を偲んでいかなければなりません。残された私達家族をお

守り頂きたい」
老朽化により危険が迫っている忠魂碑があります。今までは、地域の会員の絆と協力で何とか清掃作業と管理を続けてまいりました。
これからは、遺族会だけの問題ではないと思います。
忠魂碑建立105年目にあたる今、是非、行政に追悼式並びに忠魂碑の管理維持について、今後の方向性を示していただきたいと願っております。

50年前にインパール遺骨収集でお世話になった女性とお会いして...

愛荘町遺族会

森野久嗣

日本戦没者遺骨収集推進協会の久木原真哉氏より、インド・インパール・ナガラスタドのアジャヌオ・ベルホさんが平和講演のため来日することになり、「森野さんと是非お会いしたいとおっしゃっています」と突然お電話をいただきました。

入域も大変厳しくありましたが、そんな中、現地案内等で大変お世話になった女性です。戦友会の方から「コヒマの三人娘」として慕われていた女性の一人でした。当時から50年が経過し、平和を願う講演者として、岐阜大学にお越しになるとのことでした。

アジャヌオ・ベルホさんは、昭和50年3月、国松善次氏の計らいで政府派遣第1回インド・インパール遺骨収集に参加させていただいたときに初めてお会いしました。現地は外国人の入域が厳しい地域であり、遺骨収集での

私は数か月前に足を骨折し、車いす生活でしたが、親戚の助けもあり、岐阜大学へ会いに行くことができました。彼女の顔を見た途端、当時のインパールでの思い出がこ



み上げ、涙が溢れました。50年前、父の激戦地でお世話になった女性が、今も私のことを記憶し、会いたいと連絡をくれたことに大変感激いたしました。
父が眠るセングマイ高地の墓地で、大きな声で「お父さん、お父さん」と叫んだ思い出が今も忘れられません。
二人で50年前の思い出や戦争の悲しさを語り合いました。彼女は今もなお、友人と共に山の荒れた土地で遺骨の掘り起こしをしてくださっているそうです。戦争の悲惨さと平和への願いを心に、インドと日本の友好関係を強く感じさせていただき感謝いたします。
また、日本へお越しいただき、お会いできることを願っております。